

上野幌・青葉地域 **南側部会 ニュース**

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会はこれまで地域の4つの小学校を対象に検討してきました。平成28年9月からは北側部会（上野幌小学校・青葉小学校）と南側部会（上野幌西小学校・上野幌東小学校）に分かれて検討しています。このニュースについても部会ごとに発行しています。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

第7回部会について

3月16日（金曜日）午後3時から、上野幌西小学校で第7回部会を開催し、今後の取組の進め方などに関する協議を行いました。

報告事項

個別に寄せられた
意見

12月12日に開催した第6回部会以降、電話で2件のご意見等が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 片仮名の校名は、新設校の学校名としてふさわしくないと思う。
- 上野幌西小学校の跡活用は地域でも関心のあることなので、地域の意見もしっかりと聞きながら検討を進めてほしい。（平成30年2月 電話）
- 北海道の中でも片仮名の学校名はほとんどなく、違和感がある。日本の風習として、地域の名前を重んじて、漢字の学校名を公募案の中から選定すべきだったのではないかと。（平成30年3月 電話）
（事務局回答）新しい小学校の校名案は、公募して集まった案の中から、両校のPTAや地域の代表者、学校関係者、有識者により構成される検討委員会において、その理由も含めて十分に協議し、決定したものであることをご理解ください。

今後の取組の進め方について

前回の部会での意見も踏まえて協議を行った結果、下記のとおり決定しました。

今回（第7回）をもって南側部会は閉会します**< 閉会の理由 >**

- ◆部会から教育委員会宛に意見書を提出していること
 - ・「学校規模適正化に関する意見書」（平成28年10月）
 - ・「新設校の校名案に関する意見書[校名案：札幌市立ノホ口の丘小学校]」（平成29年12月）
- ◆今後の検討は下記のとおり進めるのが望ましいこと

学校に関すること

開校・閉校に伴う検討は学校を中心に行い、教育委員会・地域・保護者も学校と適宜協力・連携しながら、新設校がより魅力的な学校になるよう努める。

跡活用に関すること

上野幌西小学校の跡活用の検討を行う部会を設置し、検討を進める。

今後の検討の進め方

学 校 に 関 す る こ と

閉校・開校に伴う検討は学校を中心に行い、教育委員会・地域・保護者も学校と適宜協力・連携しながら、新設校がより魅力的な学校になるよう努める。

【学校】

- 新設校の通学路 ●校歌・校章
- 交流事業 ●PTA組織の統合 など

【保護者】

- ・PTA組織の統合を含めたPTA同士の連携強化
- ・スクールゾーン実行委員会への参加 など

【地域】

- ・学校と地域がそれぞれで取り組んでいる独自の行事の継承及び融合
- ・スクールゾーン実行委員会への参加 など

【教育委員会】

- ・施設改修 ・情報発信 ・各団体との連絡調整 など

跡 活 用 に 関 す る こ と

上野幌西小学校の跡活用の検討を行う部会を設置し、検討を進める。

名 称	上野幌西小学校跡活用検討部会	
目 的	上野幌西小学校の跡活用の検討を行う	
構 成	厚別南まちづくり会議から推薦された委員で構成	人数
	両校区（現在の 上野幌西小学校 と 上野幌東小学校 の校区）の 単位町内会等の代表	6名
	上記以外の団体の代表 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 上野幌西小学校・上野幌東小学校のPTA 民生委員児童委員協議会 青少年育成委員会 上野幌体育振興会 町内会連合会女性部 </div>	6名
	合計	12名
運 営	教育委員会（学校規模適正化担当）及びまちづくり政策局（地域計画課）が連携して行う。	

上野幌西小学校の跡活用に関する調査業務について（説明）

上野幌西小学校の跡活用に関する調査業務の結果について、まちづくり政策局地域計画課から、下記のとおり説明がありました。

現 況 調 査

- 上野幌西小学校区における人口は平成 28 年現在で約 4,500 人であり、過去 10 年間の推移でみると毎年 60 人程度減少。
- 人口構成比率でみると、年少人口と生産年齢人口は減少、高齢人口は増加。高齢人口比率は 26.0%で全市平均の 25.0%より高い。

地 価 調 査

- 過去 10 年間の推移でみると、約 1 割程度価格が下落し、ひばりが丘駅周辺も同程度下落。

周 辺 土 地 利 用 状 況

- おおむね幹線道路沿いに商業施設が分布。
- 小学校区内のほとんどは戸建住宅が立地しており、目立った空き地もみられない。

事 業 者 ヒ ア リ ン グ

- 「健康づくり」・「医療・福祉」・「住宅」・「商業」・「子育て・教育」の分野の民間事業者及び「ディベロッパー」に対し、事業展開の可能性についてヒアリングを実施。
- ヒアリングの結果、「住宅」や「子育て・教育」の分野、ディベロッパーについては、土地取得の意向があると回答があった。

◆委員意見など （跡活用に関する 調査業務について）

委員から主に以下のような意見がありました。

- ヒアリングの結果をみると、住宅関係・子育て関係について土地取得の意向があるとのことだが、地域の要望に一番近いものは子育て支援関係になるのではないか。

【まちづくり政策局回答】

このヒアリングは、事業者側がこの土地で事業展開を行うことができるかの視点から実施しています。地域のニーズとのマッチングはこれから行うこととなりますが、その結果、手を挙げてこない場合や、事業者側で組合せを考え提案する場合も考えられます。

- 住宅関係として活用される場合であっても、体育館を区切り、グラウンド部分のスペースを宅地とするなどの形態も考えられるか。

【まちづくり政策局回答】

考え方のひとつとしてあり得るものと思います。頂いた意見の内容などは、今後、跡活用検討部会で議論していくこととなります。

●附帯条件を付けて公募する前に、事業者と接触する機会はあるか。

【まちづくり政策局回答】

検討が先行する石山南小学校では、公募前の段階において、地域貢献活動等の与条件を提示した上で、興味を持つ事業者と市が直接対話する調査を実施しています。

確認事項

第7回の部会では下記のことを確認しました。

- 南側部会は今回で閉会する。
- 今後、閉校・開校など学校に関することは、学校を中心に検討する。
- 「上野幌西小学校跡活用検討部会」を設置して、跡活用について検討する。

教育委員会より

上野幌・青葉地域南側部会の委員の皆さまには、平成26年8月の小規模校検討委員会を経て平成28年9月の第1回南側部会開催からこれまで約3年半に渡り検討を重ねていただきました。

また、保護者、地域の皆さまからはこの間、メールや電話などでたくさんのご意見をいただきました。心よりお礼申し上げます。

今後は平成31年4月の新設校（ノホ口の丘小学校）開校に向け、準備を進めていくこととなりますが、引き続き、児童・保護者・地域の皆さまのご理解・ご協力をいただきながら、子どもたちが新しい学校に安心して通えるよう取り組んでまいります。

なお閉校・開校準備や、上野幌西小学校の跡活用に関する検討状況につきましては、南側部会ニュースとは別な形式でお知らせしていく予定です。

■ ご意見・ご質問は、下記までお寄せください ■

■小規模校検討委員会に関すること<小規模校検討委員会事務局>■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル5階

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837 E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

■校舎の跡活用に関すること■

札幌市まちづくり政策局 都市計画部 地域計画課（調整担当）

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎5階

T E L 011-211-2545 / F A X 011-218-5113 E-mail toshikeikaku@city.sapporo.jp

※ 部会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>